

令和7年長浜市議会定例会

令和7年12月定例月議会<sup>ていれいづきぎかい</sup>

閉会あいさつ

令和7年12月23日

長浜市議会定例会 令和7年12月定例会月議会の閉会にあたりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

本定例会では、補正予算や条例改正などの諸議案につきまして、議員の皆様にご慎重かつ熱心にご審議を賜り、いずれも原案どおりご議決・ご承認を賜りましたことに、厚くお礼を申し上げます。

それでは、閉会にあたり、この1年の市政運営を振り返りながら、所感を申し上げます。

本年を振り返りますと、昭和百年、そして戦後八十年という大きな節目を迎える中で、社会のさまざまな分野において、これまで予兆として語られてきた変化や課題が、現実のものとして私たちの前に現れた一年であったと感じております。

日本では、初めて女性の内閣総理大臣が誕生し、責任ある積極財政のもとで新たな政策運営が進められました。また、大阪・関西万博の開催を通じて、世界とのつながりや日本の存在感が改めて意識され、地方においても、その成果をどのように地域の発展につなげていくのかが問われています。

一方で、国際情勢や経済環境の変化は、物価高や人手不足と

いった形で、市民生活や地域経済に直接的な影響を及ぼしています。さらに、各地で相次いだ地震や自然災害により、日本列島のどこにおいても備えが欠かせないことを、改めて認識する一年でありました。

こうした中、本市にとって特筆すべき出来事は、本市曾根町出身で大阪大学特別栄誉教授である坂口志文先生が、ノーベル生理学・医学賞を受賞されたことであります。ふるさと長浜から世界に羽ばたかれたそのご功績は、市民に大きな誇りと希望をもたらしました。

今議会において、名誉市民条例の制定と、坂口先生を本市の名誉市民にお迎えする議案についてご議決を賜りましたことに、心から感謝申し上げます。

来年１月には名誉市民称号授与式を執り行い、市民の皆様、そして議会の皆様とともに、この栄誉を分かち合う場を丁寧につくり上げてまいりたいと考えております。

また、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会では、柔道、相撲、ソフトテニスをはじめ８つの競技を本市で開催し、選手の皆様の熱戦を間近で応援する機会に恵まれました。大

会を通じて、スポーツを軸に人と人がつながり、地域に温かな一体感が生まれたことは、今後のまちづくりにとっても大きな財産であります。

観光や交流の分野においても、長浜<sup>きもの</sup>kimono AWARDSでは世界的アーティストである<sup>よしき</sup>YOSHIKIさんをお迎えし、また石田三成祭をはじめとするイベントでは、大河ドラマ「豊臣兄弟！」に出演予定の俳優が参加されるなど、例年以上に特別な秋となりました。歴史や文化に彩られたこれらの取組は、多くの来訪者を迎え、本市の魅力を内外に発信する機会となりました。

一方で、病院の再建・再編に関する課題につきましては、市立2病院の経営悪化により、病院経営が成り立っているという前提条件が著しく変化したことを踏まえ、この一年は病院再建の取組を徹底してまいりました。今後は、長浜市の将来の医療を守るため、当面の経営再建及び病院再編を加速する新たなステージに入ったものと考えております。

市立病院の機能について、考え得る幅広い選択肢をテーブルに乗せ、そのメリット・デメリットや市民負担についてもしっかりと示しつつ、市民の皆様とともに議論してまいります。

また、本年は市長就任以降の市政運営を改めて総括し、次の段階へ進むための節目の年でもありました。

振り返れば、長浜市にはこれまで、課題を先送りし、見て見ぬふりをしてきた面があったことも否めません。そうした構造的な先送り体質を断ち切る必要性を象徴するものとして、議会における議員の不適切な言動への対応があります。

個人を責めるためではなく、議会全体の健全性を守るため、問題となる言動については明確に指摘し、他の議員の皆様のご協力を得ながら、辞職勧告決議やパワハラ根絶決議につなげ、市民からの信頼回復に努めてまいりました。こうした取組は、長浜市が変わるために避けて通れない改革の一つであったと考えております。

こうした課題が噴出する中であっても、改革の必要性を訴え、この４年間、まちの賑わいをつくり、暮らしやすさを高める取組を進めてまいりました。

賑わいの分野では、長浜４５０年戦国フェスティバルをは

じめとする取組を通じて、祭りの実行委員会や史跡保存会などによる連合体を結成し、市民が一体となって歴史と文化を発信する大きな賑わいを創出しました。

黒壁の改革支援では、債務問題など目を向けにくかった課題に正面から向き合い、再生への道筋を示してまいりました。

また、市域を面的に捉え、特に北部地域や南長浜地域においては、民間資本との連携や、若者・グローバルな視点を取り入れながら、持続可能なまちづくりに取り組んでまいりました。

暮らしの分野では、こども・若者政策として、医療費無償化など子育て支援メニューの充実、子育て世帯の住宅支援の大幅な拡充、さらに、こどもや若者が主体的に行う活動を応援する取組を新たに数多く始めました。

教育分野では、「生きる力」を養う取組として、子どもが自ら学びを深める「長浜スタイル」の授業の推進、ＩＣＴの活用やラーケーションの導入など、さまざまな取組を展開してまいりました。

加えて、移動販売車による買い物支援やデマンドタクシーの拡充など、日常の暮らしに寄り添う施策を積み重ね、市民一

人ひとりの安心につなげてまいりました。

病院再建・再編も、先送りされてきた課題に真正面から向き合う取組の代表例であり、将来世代に責任を果たすための改革であります。

今後は、北近江豊臣博覧会の開催や、それに続く戦国ベルト地帯構想の実現をはじめ、地域医療の課題、物価高や人手不足への対応など、目の前の課題にも引き続き取り組み、さらに長浜大改革の継続・発展を図ってまいります。

そして、限られた財源と人員の中で優先順位を明確にし、説明責任を果たしながら、市民の安心と将来への投資を両立させる市政運営に努めてまいります。

今年も残すところあと8日となりました。議員各位におかれましては、市政運営に対し多大なるご理解とご尽力を賜りましたことに、心から感謝申し上げます。年末ご多忙の折ではありますが、どうかご自愛いただき、来る年が議員各位と本市にとりまして実り多い一年となりますようご祈念申し上げます。

市民の皆様、議員の皆様と共に考え、共に進む市政をこれからも大切にしながら、長浜市の未来に責任を持つ歩みを続けてまいりますこととお誓い申し上げます。

最後に、本年の総括、そして市長就任から４年間の歩みと今後への誓いのまとめとして、社会や人口構造が大きく変化する時代にあって、長浜市の未来を考える上で心に留めたい言葉を、議員の皆様、市民の皆様と共有して締めくくりといたします。

それは、生命の進化を研究したチャールズ・ダーウィンが進化論の核心を述べた次の言葉です。

「最も強い者が生き残るのではない。最も賢い者が生き残るのでもない。唯一生き残るのは、変化に最もよく適応できる者である」。